



藤沢御殿跡

(藤沢公民館、市民病院辺り)

慶長元年の頃は東西106間、南北62間の御殿があり、家康、家光など30回近く利用されたという。天和2年(1682)ごろ廃止される。今も御殿橋、陣屋小路、陣屋橋の地名残る。



白旗神社 祭神 寒川比古命

建久9年(1198)に白旗川(現境川)に相模一宮寒川神社を勧請したのが始まり。宝治3年(1249)源義経公を合祀する。現在の社殿は天保6年(1833)再建されたもの。白旗は源氏の旗。神社は関東、東北、中部地方に分布白幡とも表示され、多くは源頼朝を主祭神とするが源氏武將を祀る。



義経首洗い井戸

頼朝に追われた義経は奥州で殺されその首は文治5年(1189)藤原泰衡から頼朝のところに送られて来た。首実検後腰越浜に捨てられたが潮の流れに乗って境川を遡りこの辺りに漂着した。里人が拾い上げ清めた井戸と伝えられる。

藤沢宿 平塚宿から3里半

本陣1、脇本陣1、問屋2、旅籠45。町並み東西12町17間 遊行寺の門前町、江戸島への分岐として栄える。



永勝寺と遊女の墓



歌舞伎 仮名手本忠臣蔵の三段目 塩谷判官の家臣早野勘平と腰元お軽がお軽の在所への道行。「鎌倉を出てやうやうと、ここは戸塚の山中、石高道で足は痛みはせぬかや」実在のお軽は大石内蔵助の山科頃の愛妾。お軽は「於可留」とも。

汲沢町



お軽勘平、戸塚山中道行の場碑



小栗判官等の墓



遊行寺 (藤澤山無量光院 清浄光寺)

開祖の一遍上人は寺に止住せず「南無阿彌陀仏」の称名・「踊り念仏」と賦札にあげられた。遊行4世の呑海が相模国俣野荘の地頭俣野五郎兼平の弟であった縁で廃寺であった極楽寺を再興し、清浄光院を創建、遊行上人の拠点とした。

黒門を潜って左手の墓地に国定忠治の子分、板割浅太郎の墓といわれる石塔がある。親分と別れた後、僧となり、火災で焼けた寺の復興に尽力。明治26年没。

敵御方供養塔

応永23-4年に関東管領上杉禅秀と足利持氏の争いで負傷、戦死した者を遊行寺14世太空中上人の率いる遊行僧が敵味方なく治療、供養した。(国史跡)

長生院

古くは 閻魔堂よばれ、照手姫により中興され長生院と改称される。小栗判官満重、十勇士と照手姫の墓がある。姫は、判官の死後尼となり長生院に住んだという。(墓はお堂の左手、軒を通って裏に)



養命寺

本尊、木造薬師如来坐像(国重文)像高90cm、桧木寄木造、玉眼入り。胎内から、建久8年(1197)8月の銘が発見される。脇侍に14世紀後半とされる日光、月光菩薩をしたがえられている。

常光寺

活躍した野口米次郎(1875—1947)の墓がある。彫刻家イサム・ノグチの父で、英米文学者・詩人として江戸初期、慶安のころの女侠客、今井かめの墓、弁慶首塚などがあるという。(確認できなかった残念)

永勝寺

旅籠、小松屋源蔵の墓をはじめお抱え遊女39人の墓がある。